

一期一会

自律 目標に向かって自分自身を律する
感謝 思いやりや感謝の気持ちをもつ
貢献 将来社会に貢献する態度を養う

2021.5.21 第7号



第75回 体育大会 盛会に終了

体育大会を目前に控えた10日(月)に県が独自の緊急事態宣言を発令しました。翌日11日(火)には例年より19日早い梅雨入り。天気予報ではずらっと傘マークが並んでいる状態でした。このような中で体育大会を実施できたことに、心から感謝したいと思います。



当日は雨と曇り、晴れ間が交互に来る悩ましい天気で、午前中のみの実施でした。午前中開催や競技を制限した

事による生徒のモチベーション低下など心配しましたが、杞憂に終わりました。運動が得意な生徒もいれば不得意な生徒もいる中で、誰一人として手を抜くことなく精一杯一生懸命に競技に参加しました。生徒の一生懸命に感動し、元気をもらった体育発表会でした。

一生懸命に感動

約1ヶ月の練習期間。生徒会や体育大会実行委員を中心に密度の濃い準備をして当日に臨みました。団ごとの応援練習では、団長・副団長・リーダーが中心となってしっかりと団をまとめており、**自律** がしっかりできているなど感じました。また、団技に全力で臨む姿勢、学級対抗リレーでバトンをつなぐ姿、観客も思わず見入る集団行動やホソソランなど、見ている人に感動を与えるものでした。



P T A役員さん、保護者の皆さまの協力に感謝

雨で前日準備ができなかったのが当日早朝に準備をしました。職員がトラック整備をする中、保護者の皆様に準備の手伝いをいただきました。中には、在校生のいない方(卒業生の保護者)も手伝ってくださり、地域の底力を実感しました。また、P T A役員の皆様には、大会運営でのサポートをいただきました。



改めまして、P T A役員の皆様、保護者の皆さまに感謝申し上げます。ありがとうございました。



体操の富田洋之をご存じでしょうか

アテネオリンピックでは日本チームのエースとして出場し、団体総合で日本の28年ぶりの金メダル獲得に貢献しました。また、個人でも種目別の平行棒で銀メダルを獲得しました。

富田選手の出身高校は洛南高校。体操のみならずいろいろな競技で強豪校として知られています。その洛南高校の体操部名誉顧問の辻野先生が、富田選手のことについてコメントされていました。



日常生活即体操

洛南高等学校体操部名誉顧問 辻野 朝晟 氏

「私たちは昭和44年、初めて全国優勝を果たしたのである。スポーツ選手は相手との戦いではなく、自分との戦いである、ということを強く噛みしめた瞬間であった。

これまで私は300人以上の生徒を指導してきたが、強い選手とそうでない選手との差はどこにあるかと考えると、何事にも一生懸命やるか、手を抜くか、最後はその差でしかないというのが実感である。

その最たる模範が富田洋之だろう。洛南高校の制服は詰め襟の学生服だったが、彼は常に上までビシッと留めていた。また、毎日10時まで練習していれば、普通は授業中に寝るものだが、彼は一睡もしなかった。

彼がなぜ世界のトップクラスの選手になったのかと言えば、人間性以外の何ものでもないと思う。日常生活即体操。練習場にいる間だけが練習なのではなく、生活すべてが技術を磨く場なのである。日常生活がだらしない人間は強い選手にはなれないし、社会に出てからも役立つ人間になれないだろう。高校3年間というのは、生徒にとっては長い人生の中のわずかな期間でしかない。しかし、その3年間でどう過ごすかがその後の人生に大きな影響を及ぼすのである。人間としての根を育てる。根がしっかりしていればどんなことにも耐えられ、やがて花が咲く。」

(「到知」H25. 7月号抜粋)

「よかったことの現実も悪かったことの現実も、次へ向かう糧にしたい」

元マラソン選手 高橋尚子

「よいことも、よくないこともあった。でも、どんなことだって、すべては未来への糧になるんだと俺は思っている。」

元プロサッカー選手 中田英寿